

《Seiry's Global Commons: An Uncommon Experience》

「私はゴリラになりたい。」

麻田 佳葉[†]

このタイトルを見て驚く方が多いと思う。みんなから驚かれることは十分理解しているが私はゴリラになりたいし、ゴリラに進化したい。

まず、なぜ私が「ゴリラになりたい」のかを述べる前に、どうやってゴリラに出会ったのかについて述べたい。私は今年の2月にいしかわ国連スタディビジット・プログラムに参加してニューヨークの国連で研修をしてきた。その研修を通して感じたことは、なぜ私は自分以外を受け入れることが苦手なのかということである。それを克服するために本を読んだり、先生とお話したりした。先生とあるトピックについて話していたら、一冊本を紹介してくださった。それが山極寿一さんの「サル化する人間社会」という本だった。私はこの本を読んでゴリラがどういう動物か知り、ゴリラになりたいと思ったのだ。それほど私にとってこの本は影響力があり、ゴリラは魅力的な動物だった。

次に、なぜ私がゴリラになりたいのかを述べる。その理由は3つある。

1つ目は、ゴリラは平等的な動物だからだ。一般的なゴリラのイメージとはかけ離れているかもしれないが、ゴリラは平等的な動物なのだ。まずゴリラにはヒエラルキーがない。例えば、類人猿のサルには完全なヒエラルキーがありボスザルは絶対的存在である。そして共同体はなく個人主義の社会である。反対にゴリラは共同体を持ち、大人であろうがこどもであろうがみな平等である。ゴリラにもリーダーはいる

が、ボスザルのように周りを支配するような存在ではない。ゴリラのリーダーは共同体を支える大黒柱のような存在だ。人間が実現することが大変難しい平等を成し遂げているゴリラは人間をはるかに超えていると思う。

2つ目は、ゴリラは優劣・勝ち負けしない動物だからだ。1つ目の理由で述べたように、ゴリラは平等主義だ。様々な宗教で人間は平等であると言われているが、実際、人間の中には格差があり不平等が社会問題となっている。人間はもともとゴリラのように平等で共同体の中で協力しながら生きていた動物だったと思うが、現代の人間はサルのように個人主義になっていると感じる。ゴリラが優劣・勝ち負けの概念を持っていないというのは、例えば、ゴリラ同士でけんかをしたとしても殴り合いをするのではなく、じっとお互いを見つめてふっと和解するということだ。お互いを見つめるのは、相手が何を考えているのかを知ろうとするからである。また第三者のゴリラが仲裁役としてけんかをとめることもある。仲裁役としてメスや子どもも間に入ることがある。なぜメスや子どもなど力がなさそうなゴリラが仲裁役になれるのかというと、先に述べたようにゴリラには優劣の意識がないからだ。ゴリラのけんかは誰も勝たず誰も負けない。人間はゴリラのこのような意識を学ぶべきではないか。人間の場合、ゴリラのように勝ち負けを決めずにけんかを終えることができるだろうか。

[†] Faculty of Humanities, Kanazawa Seiry University

3つ目は、ゴリラは受け入れる力を持っているからだ。今日では、グローバル社会や異文化理解という言葉をよく耳にするが、それを実現するために最も重要なことは受け入れる力だと考える。人間は自分と異なることを受け入れるのが本当に苦手である。むしろ、同じ人間であるはずなのに、自分と違うところを見つけて人間の中で差を作ってしまう。私も自分と異なる人を受け入れるのが苦手だ。この場合の異なる人とは外国人のことを指しているのではなく、自分と異なる考えや価値観を持っている人のことを指す。学生生活において、強く感じることは「人を受け入れることはなんて難しいのだろう。」ということである。社会には自分と全く異なる人はたくさんいる。しかし自分はそのような人たちと一緒に働かなければならないし生きていかなければならない。その時に必要な力が受け入れる力であると思う。ゴリラはこの力を持っているのだ。ゴリラは違う種類の動物：人間を受け入れることができるのだ。人間は人間を受け入れることが大きな課題であるの

に対して、ゴリラは人間を受け入れることができるのだ。私はこの事実を知って、ゴリラはなんて素晴らしい動物なのであろうと感じた。人間は同じ人間を人種や肌の色・国によって差別をする。なぜ人間は差別をするのか。ゴリラは異なる動物を受け入れることができるのに、人間はできないのか。

これまで私がゴリラになりたい理由を述べてきたが、特に3つ目の理由として挙げた受け入れる力を身に付けたい。日本人すらも受け入れることができない私がグローバル社会で生きていくためにはこの力が必要不可欠であることは間違いない。受け入れる力をゴリラから学び、自分自身に活かしていきたい。受け入れる力以外にも、ゴリラが平等主義であることや優劣・勝ち負けという概念を持っていないところも自分が持っていないものである。これら3つのゴリラの特徴は、自分に限らず人間が持っていないものだと考える。最後に、私にとってゴリラとは人間があるべき姿である。